

令和5年度 第2回雲南地域保健医療対策会議
第1回医療・介護連携部会

日 時：令和5年11月14日（火）
16:00～18:00
場 所：雲南保健所 集団指導室
（Zoom 併用）

1 開会あいさつ

2 報 告

(1) 雲南地域第9期介護保険事業計画の策定について（資料2）

3 議 事

(1) 第8次島根県保健医療計画の策定について

①雲南圏域素案、医療連携体制図案（資料3）

②医師確保計画案（資料4）

③外来医療計画案（資料5）

④健康長寿しまね推進計画(第三次)案（資料6）

4 その他

(1) 診療所の廃止について

・なごみクリニック

5 閉会あいさつ

令和5年度 第2回雲南地域保健医療対策会議 第1回医療・介護連携部会 出席者名簿

- 地域医療構想調整会議(全体・関係者会議) -

No	所 属	職	氏 名	地域保健医療対策会議委員 (該当者は○)	医療・介護連携部会委員 (該当者は○)	出席方法	備考
1	雲南市	副市長	吉山 治	○		会場	
2	奥出雲町	副町長	藤原 努	○		リモート	
3	飯南町	副町長	奥田 弘樹	○		リモート	
4	雲南市立病院	院長	西 英明	○	○	リモート	
5	町立奥出雲病院	院長	鈴木 賢二	○	○	リモート	
6	飯南町立飯南病院	院長	角田 耕紀	○	○	リモート	
7	平成記念病院	院長	陶山 紳一朗	○	○	リモート	
8	奥出雲コスモ病院	院長	今岡 健次	○	○	リモート	代理 副院長 今岡 大輔
9	雲南広域連合雲南消防本部	消防長	細木 敬	○		会場	代理 警防課長補佐 吉川 弘典
10	雲南広域連合	事務局長	内田 孝夫	○		リモート	代理 事務局次長 安部 敏博
11	雲南医師会	会長	永瀬 英雄	○	○	会場	
12	雲南歯科医師会	代表	青木 誠	○		リモート	
13	雲南圏域健康長寿しまね推進会議	会長	加納 昂	○		会場	
14	島根県薬剤師会雲南支部	代表	伊藤 健	○		会場	
15	島根県看護協会雲南支部	支部長	藤原千登勢	○	○	会場	
16	雲南地区栄養士会	会長	松木 和江	○		会場	
17	雲南市社会福祉協議会	事務局長	杉原 昭見	○		リモート	
18	雲南地域介護サービス事業管理者連絡会	会長	梅木 郁夫	○	○	会場	
19	雲南地域介護支援専門員協会	副会長	室下 純子	○		会場	
20	がんばれ雲南病院市民の会	事務局長	荊田 進	○		会場	
21	奥出雲町地域医療確保推進協議会	会長	岩佐 俊秀	○		—	欠席
22	飯南町の医療を守り支援する会	会長	田部 五月	○		リモート	代理 飯南町保健福祉課長 安部 農
23	保険者協議会 島根県市町村職員共済組合	事務局長	小松 正樹	○	○	—	欠席
24	雲南市	健康づくり政策課長	三成 裕子		○	会場	
		長寿障がい福祉課長	熱田 小百合		○	会場	
25	奥出雲町	健康福祉課長	吉川 明広		○	リモート	
		健康福祉課長補佐	鹿野 咲子		○	—	欠席
26	雲南歯科医師会	代表	井上 幹夫		○	リモート	
27	島根県薬剤師会雲南支部	支部長	筒井 幸雄		○	—	欠席
28	島根県老人保健施設協会	事務局長	福田 武志		○	リモート	
29	雲南地域介護支援専門員協会	会長	嘉田 将典		○	—	欠席
30	島根県訪問看護ステーション協会雲南支部	支部長	野口 弘美		○	会場	

【事務局】

雲南保健所	所長	柳樂 真佐実		
	総務保健部長	永瀬 和枝		
	環境衛生部長	田原 誉利子		
	健康増進課 課長	大塚 律子		
	衛生指導課 課長	倉瀧 英人		
	健康増進課 健康づくり係長	大石 美幸		
	医事・難病支援課 主任保健師	宇都宮 拓也		
	医事・難病支援課 主任保健師	大田 さやか		
	地域包括ケア推進スタッフ 主事	細木 淳之介		
医療政策課	在宅医療推進スタッフ 医療専門員	藤井 俊吾	オブザーバー	リモート

雲南圏域の病床機能の状況

病院の病床機能報告結果（平成26年7月1日現在）

	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答
1 雲南市立病院	277	0	199	30	48	0
2 平成記念病院	115	0	60	0	55	0
3 町立奥出雲病院	158	0	98	0	60	0
4 飯南町立飯南病院	48	0	48	0	0	0
計	598	0	405	30	163	0

地域医療構想における必要病床数（平成28年10月策定）

	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
1 雲南構想区域	523	15	113	254	141

病院の病床機能報告結果（令和4年7月1日現在）

	全体	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答
1 雲南市立病院	277	0	153	76	48	0
2 平成記念病院	115	0	0	60	55	0
3 町立奥出雲病院	98	0	51	47	0	0
4 飯南町立飯南病院	48	0	48	0	0	0
計	538	0	252	183	103	0

雲南地域

第9期介護保険事業計画(素案)

第1章 計画の策定にあたって

第2章 雲南地区の現状と将来推計

第3章 計画の基本理念と基本目標

令和6(2024)年度～令和8(2026)年度

令和5年11月

雲南広域連合

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

介護保険制度は、高齢化や核家族化の進行、介護離職問題などを背景に、介護を社会全体で支えることを目的として平成12(2000)年に創設され、今後見込まれる人口構造の変化とそれに伴う社会環境の変化等に対応し、見直しが繰り返されてきました。

令和7年には団塊の世代の全員が75歳以上となり、さらに令和22(2040)年には、団塊ジュニア世代が65歳以上に到達し、全国的にはこれから高齢者人口がピークを迎えます。一方、雲南圏域では既に高齢者人口は減少局面に入っており、また、特に介護が必要な割合が高くなる85歳以上の人口は当面大きな増減はないものの、医療・介護双方の支援が必要な高齢者など様々なニーズのある要介護者の増加が見込まれます。

介護保険事業計画は、「地域包括ケア計画」として位置付けられており、地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進する計画です。

第9期介護保険事業計画では、中長期的な地域の人口動態や介護需要等を踏まえて介護サービス基盤等を整備するとともに、介護予防・健康づくり施策や認知症施策の充実など地域の実情に応じた地域包括ケアシステムを深化・推進していくことにより、地域共生社会の実現を目指します。

また、この計画は、雲南広域連合が雲南市・奥出雲町・飯南町の構成市町と一体となった広域保険者として1市2町の地域の実情を踏まえつつ、サービス基盤の共有化、保険財政の安定化、事務事業の効率化を図りながら介護保険事業を円滑に実施するための指針となるものです。

2. 計画の期間

本計画の計画期間は、令和6(2024)年度～令和8(2026)年度の3年間とします。

3. 計画の基本的な位置付け

(法的根拠)

本計画は、介護保険法第117条の規定に基づき、厚生労働大臣が定める「**介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針(基本指針)**」に即して策定する法定計画であり、老人福祉法第20条の8第1項に規定する市町村老人福祉計画と一体のものとして作成することとされています。

(他計画との調和)

本計画は、当広域連合の「第5次雲南広域連合広域計画」、構成市町の「総合計画」をはじめとする保健福祉医療に関する計画及び「島根県老人福祉計画・島根県介護保険事業支援計画」との調和を図り、同時改定となる「第8次島根県保健医療計画」との連携を図ります。

また、令和4年度に策定した「雲南地区の介護人材確保に向けての推進計画」を本計画に受け入れ、人的基盤の強化を目指します。

4. 計画の策定体制

(1) 計画策定体制

市町の担当課長や担当者・広域連合介護保険課からなる介護保険調整会議及び介護保険担当者会議で計画の原案等を作成し、介護保険被保険者代表や保健・医療・福祉の関係者、学識経験者、介護事業者代表で構成される雲南広域連合介護保険事業計画審議会において審議していただきました。

また、住民や関係者の意見を反映させるため、第9期計画案についてパブリックコメントを行います。

(2) 医療計画との調整

雲南保健所が主催する雲南地域保健医療対策会議及び医療介護連携部会において島根県保健医療計画との調整、整合を図ります。

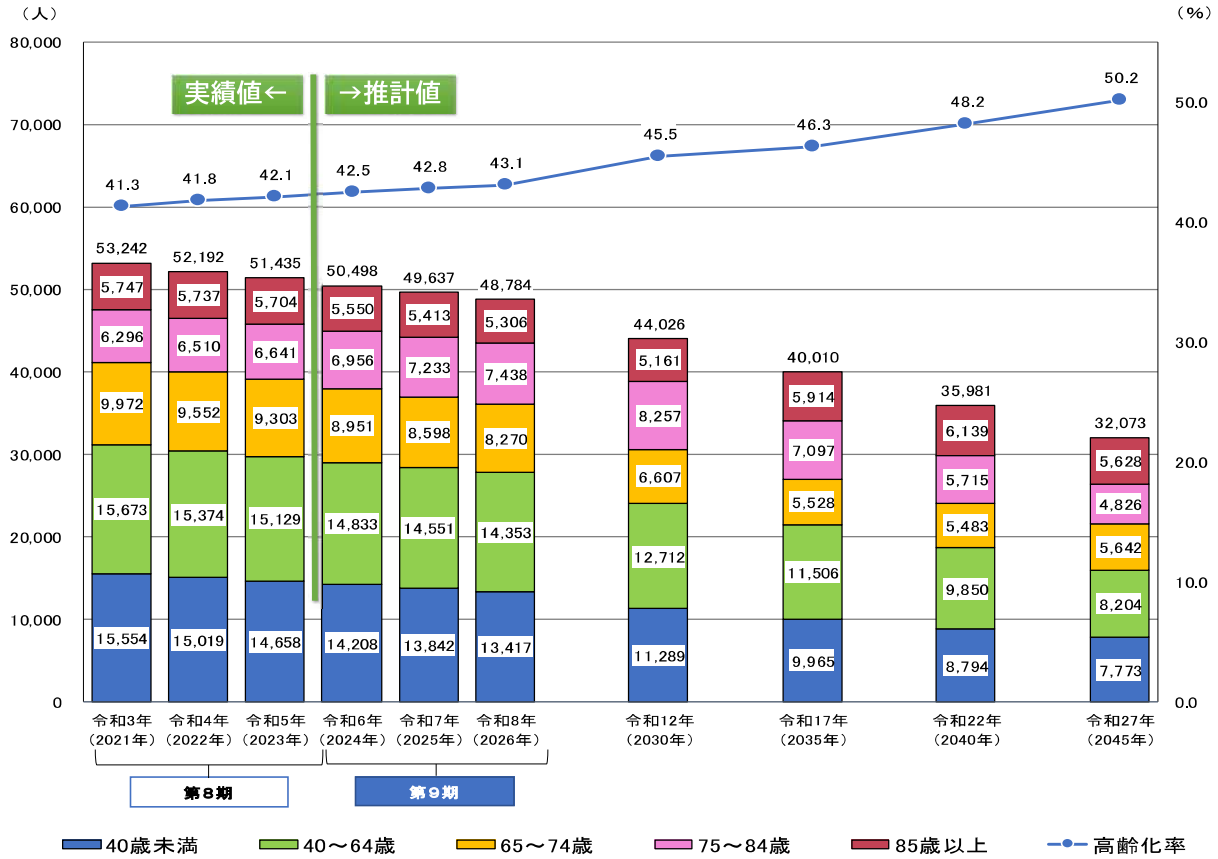
(3) 地域や被保険者の現状の把握

日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題や要支援・要介護認定者の在宅生活の状況を把握するために調査を行いました。また介護サービス関係者との意見交換会やアンケートの実施及び地域ケア会議で把握した課題をもとに議論を行いました。

- ① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査…令和4年12月実施
- ② 在宅介護実態調査…令和4年11月実施
- ③ 介護サービス事業所アンケート調査…令和5年1月実施

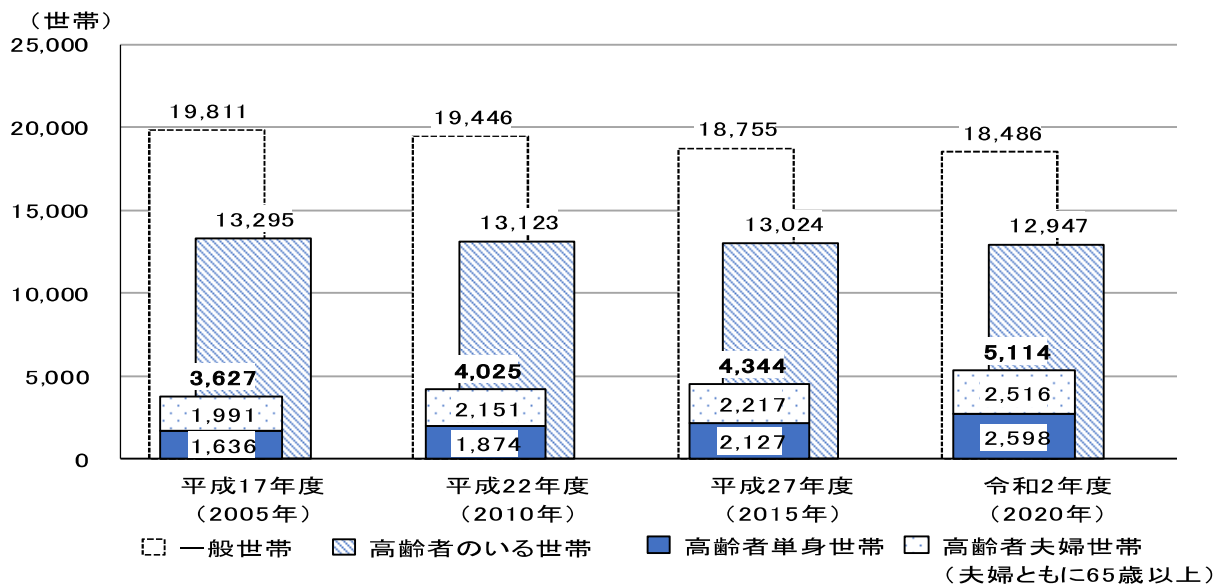
第2章 雲南地区の現状と将来推計

1. 人口減少と高齢化率の上昇



2. 高齢者単身世帯、高齢者夫婦のみ世帯の増加

■世帯構成の変化

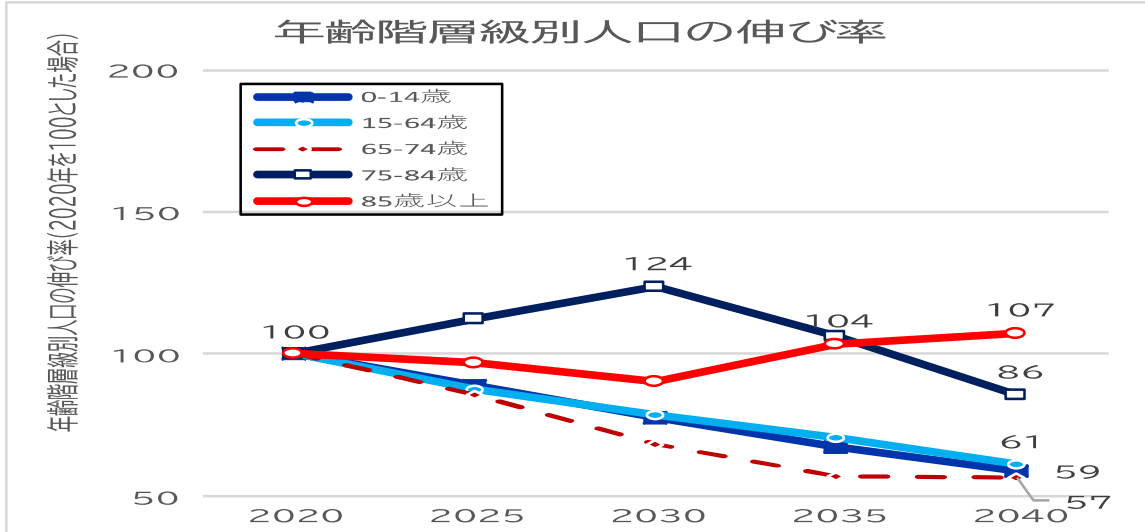


資料: 国勢調査

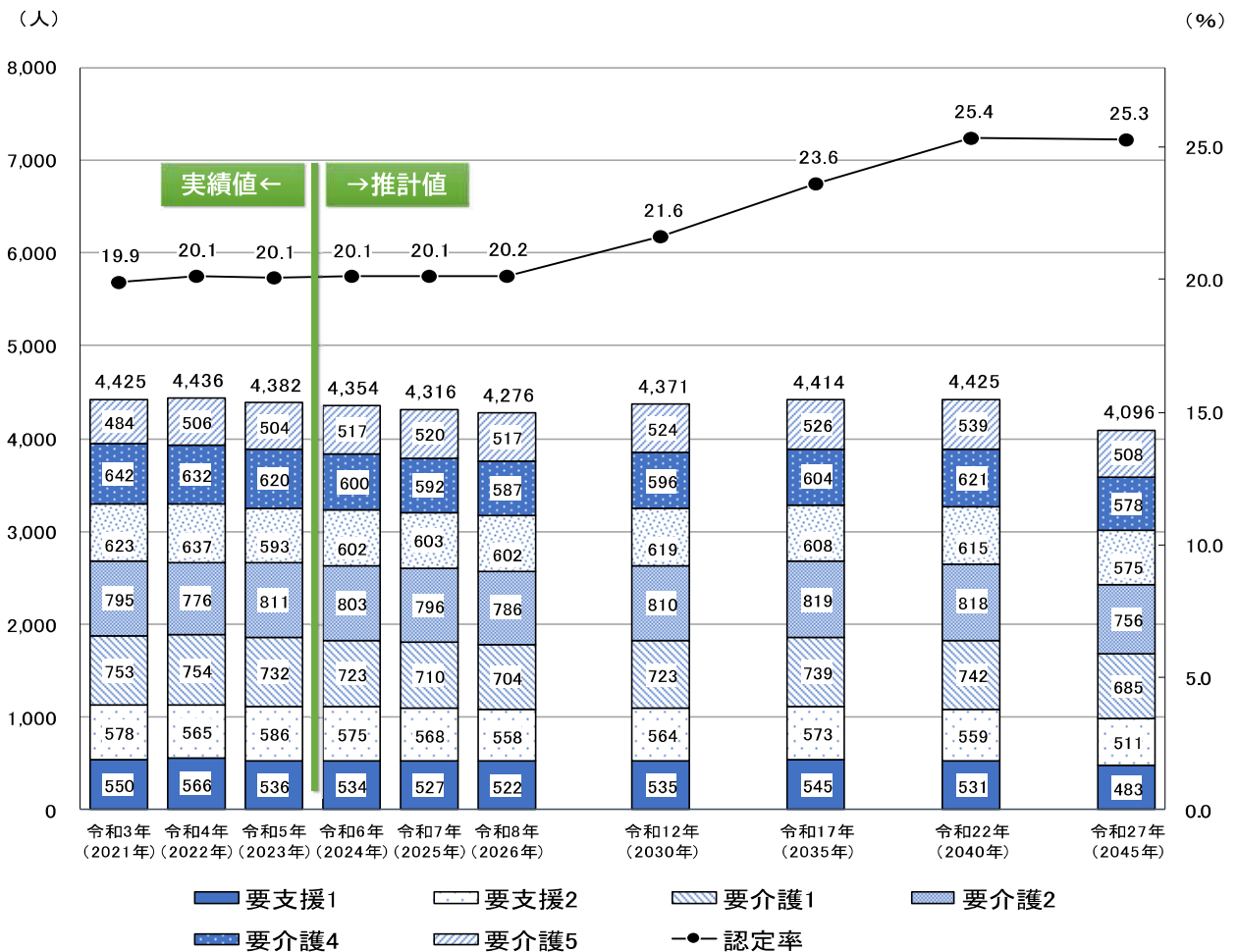
3. 人口構造の変化(2020～2040 年の変化)

■年齢階層級別の人口の伸び率

雲南地域の85歳以上人口は、2030 年に向けて一旦減少しますが、以降再び増加傾向となります。



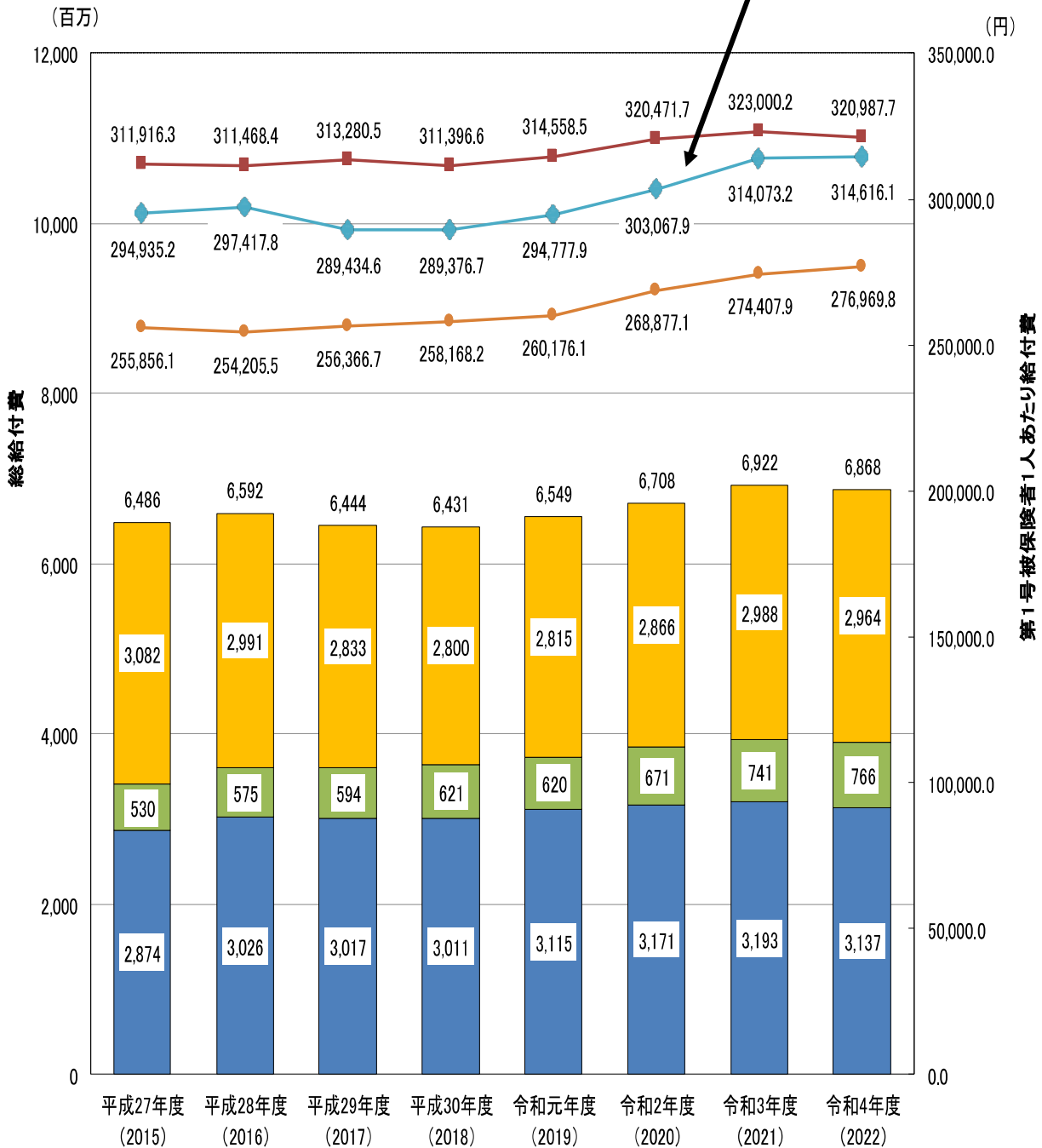
4. 要介護・要支援認定者数の推移



5. 介護給付費の推移

給付費は、横ばいで推移していますが、ここ数年はわずかに増加しています。施設サービス及び居住系サービスの給付費が増加傾向、在宅サービスは横ばいで推移しています。

第1号被保険者1人あたりの給付費は増加傾向ですが、県平均よりも低い状況で推移しています。



- 施設サービス
- 在宅サービス
- 第1号被保険者1人あたり給付費(県)
- 居住系サービス
- ◆ 第1号被保険者1人あたり給付費
- 第1号被保険者1人あたり給付費(国)

第3章 計画の基本理念と基本目標

● 基本理念(第8期計画を継承)

「いつまでも自分らしく幸せな生活を続けられる地域の実現」

● 基本目標および主な施策項目

《安心して住み続けられる地域づくりの推進》

【主な施策項目】

- ✓ 在宅医療と介護の連携（かかりつけ医機能との連携）
- ✓ 高齢者の生活支援充実による居住の安定
- ✓ 地域包括支援センターの機能強化
- ✓ 災害や感染症対策への対応 など

《認知症高齢者等にやさしい地域づくりの推進》

【主な施策項目】

- ✓ 相談支援体制の強化
- ✓ 認知症の早期発見、早期治療
- ✓ 地域での見守り体制の整備
- ✓ 家族介護者支援（ヤングケアラー支援、介護者離職の防止） など

《生きがいを持って元気に暮らせる地域づくりの推進》

【主な施策項目】

- ✓ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進
- ✓ 高齢者の自立支援、重度化防止
- ✓ 住民主体の介護予防事業の推進
- ✓ 高齢者の就労促進など社会参加による健康維持 など

《介護人材の確保と資質の向上》

【主な施策項目】

- ✓ 若年層の介護分野の理解促進、教育機関との連携（次代の担い手）
- ✓ 外国人介護人材の受入れ、介護助手制度の導入等（多様な担い手）
- ✓ 働き続けることができる職場環境の整備、処遇改善（現役の担い手）

《持続可能な介護保険制度の構築》

【主な施策項目】

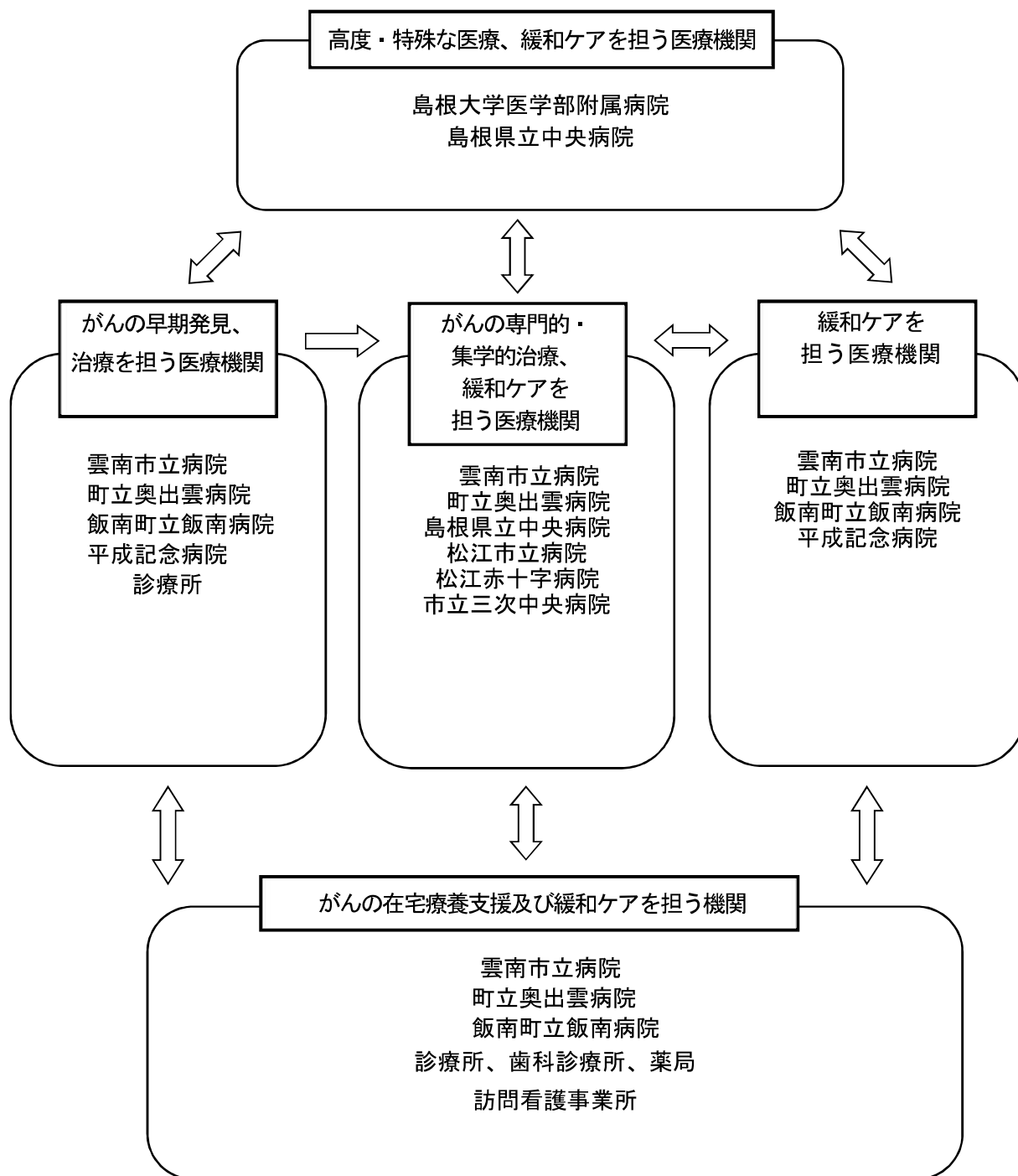
- ✓ 介護テクノロジー、ICT 導入等による介護現場の効率化と質の向上
- ✓ 介護給付・予防給付サービスの充実（新複合型サービスの創設等）
- ✓ 介護サービス事業形態の転換推進
- ✓ 給付適正化事業の取組の充実 など

【雲南圏域の状況】（現状・課題と施策の方向）

（1）がん

	現状（○）・課題（■）	施策の方向
圏域	<p>○75歳未満のがん年齢調整死亡率は、平成21（2009）年から平成31（2019）年までの10年間で、男女ともに大腸がんは減少していますが、近年増加傾向です。男性の胃がんは減少傾向、女性は横ばい傾向です。</p> <p>○大腸がんの検診受診率は、平成28（2016）年から令和3（2021）年までの5年間で減少傾向にあります。</p> <p>○大腸がんの精密検査受診率（40-74歳）は圏域目標である100%に届いていません。</p> <p>○放射線治療法等の圏域では実施できない高度・専門的ながん治療は、松江市及び出雲市のがん診療連携拠点病院と連携を取りながら行っています。</p> <p>○当圏域には緩和ケア病棟を有する医療機関はありませんが、緩和ケアチームが3病院に設置され、医師をはじめ多職種によるカンファレンスを実施し、入院患者のケアに取り組んでいます。</p> <p>■がんの発症に関連のある喫煙、飲酒、食生活、運動等の生活習慣改善の取組をより一層推進することが必要です。</p> <p>■働き盛り世代のがん検診受診率及び精密検査受診率向上に向けた取組が必要です。</p>	<p>○がんの発症に関連のある喫煙、飲酒、食生活、運動等の生活習慣改善に向けた取組を、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき推進します。</p> <p>○雲南圏域健康長寿しまね推進会議、しまね☆まめなカンパニー等と連携した、働き盛り世代のがん検診及び精密検査の受診勧奨等の取組を推進します。</p> <p>○医療機関や介護・福祉施設等において、緩和ケアに携わる人材を育成するため、研修会や事例検討を通じて、緩和ケアを提供する体制の整備・充実を図ります。</p>

【がん・雲南圏域】



* 「麻薬の調剤」「居宅での調剤」を実施している薬局については、[「島根県医療機能情報システム（島根県医療政策課ホームページ）」](#)を参照して下さい。

(がん検診で「要精密検査」となった人を対象とする精密検査を実施する医療機関)

がんの 種別 / 医療 機関名	雲南市立病院	町立奥出雲病院	飯南町立飯南病院	平成記念病院
胃がん	○	○	○	○
肺がん	○	○	○	○
大腸がん	○	○	○	○
子宮がん	○	○		
乳がん		○		

(肝炎ウイルス検査で「陽性」となった人を対象とする専門的な検査を実施する医療機関)

・雲南市立病院 ・はまもと内科クリニック ・加藤医院

(主要ながんの治療を行う医療機関一覧)

【凡例】① 手術療法 ② 薬物療法 ③ 放射線療法

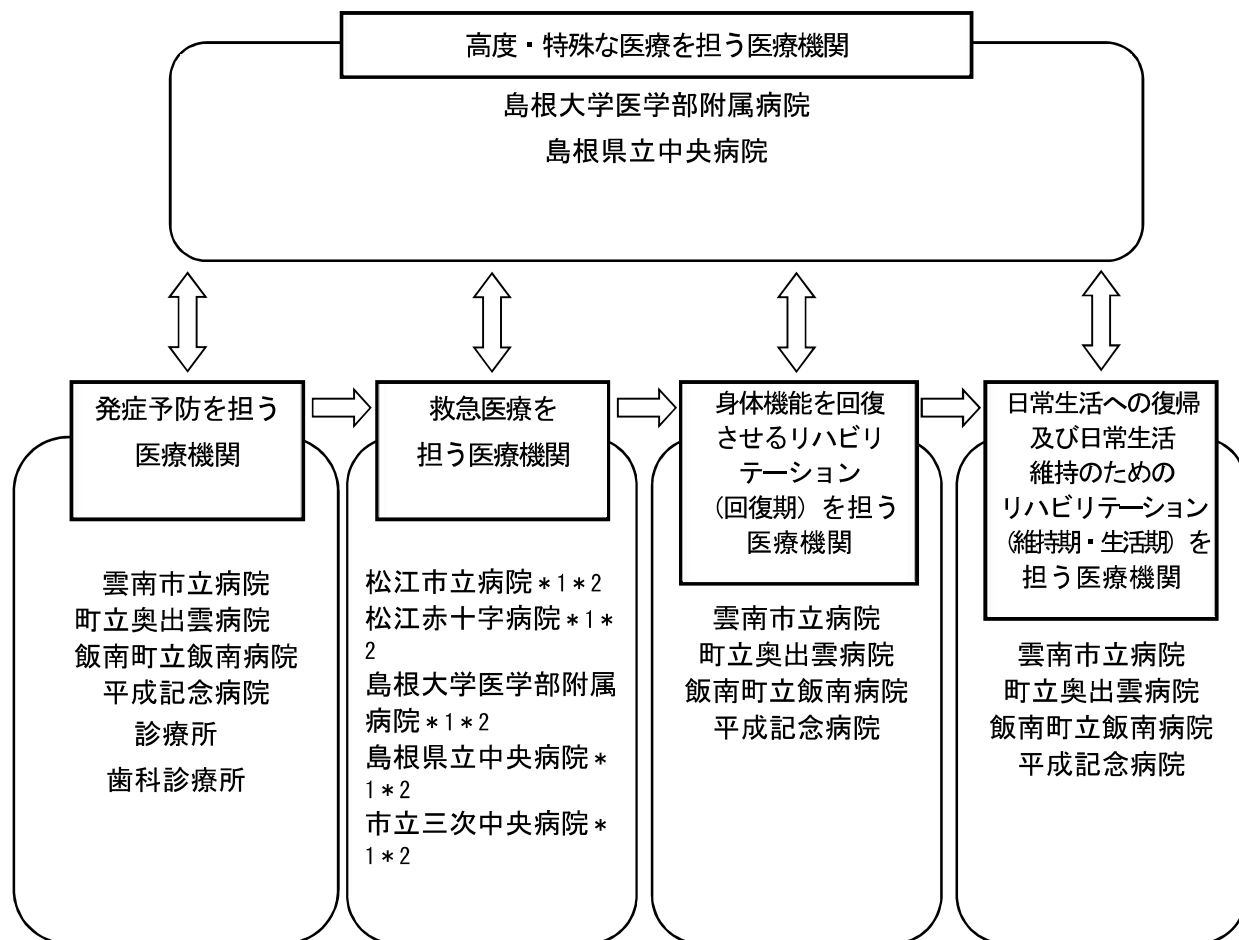
がんの 種別 / 医療 機関名	雲南市立病院	町立奥出雲病 院	飯南町立飯南 病院	平成記念病院
胃がん	①②	①②		
肺がん	①②			
大腸がん	①②	①②		
子宮がん	①②	①②		
乳がん	①②	①②		
肝がん	①②	① ②		

* その他のがん治療については、[「島根県医療機能情報システム\(島根県医療政策課ホームページ\)」](#)を参照して下さい。

(2) 脳卒中

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○脳血管疾患年齢調整死亡率は、平成 21 (2009) 年から平成 31 (2019) 年までの 10 年間で、男女とも減少傾向で、県より低い傾向にあります。</p> <p>○脳卒中初発年齢調整発症率は、平成 25 (2013) 年以降減少傾向にありましたが、男性で近年増加しており、県より高くなっています。</p> <p>○令和 3 (2021) 年の脳卒中発症者が有する基礎疾患のうち、高血圧が 75%と最も多く、次いで脂質異常症、糖尿病と続いています。</p> <p>■食塩の過剰摂取や喫煙等の危険因子や基礎疾患の管理を徹底するなど、発症及び再発予防の取組をより一層推進することが必要です。</p> <p>■高血圧や脂質異常症、糖尿病等の危険因子を早期発見するためには、特定健康診査受診率及び精密検査受診率の向上が必要です。</p> <p>■他圏域での高度急性期治療終了後、当圏域の医療機関でリハビリや在宅復帰に向けた医療が提供できるようさらに病病連携を推進していくことが必要です。</p>	<p>○脳卒中の発症や再発予防のため、望ましい生活習慣の確立や高血圧等の基礎疾患の管理の重要性について、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき普及啓発等を推進します。</p> <p>○「脳卒中発症者状況調査」を活用した脳卒中对策評価を行い、働き盛り世代の発症及び再発予防の取組を推進します。</p> <p>○かかりつけ医や保険者、事業所等と連携して、特定健康診査及び精密検査の受診勧奨に努めます。</p> <p>○雲南地域保健医療対策会議等を通じて、圏域内医療機関との連携を進めます。</p>

【脳卒中・雲南圏域】



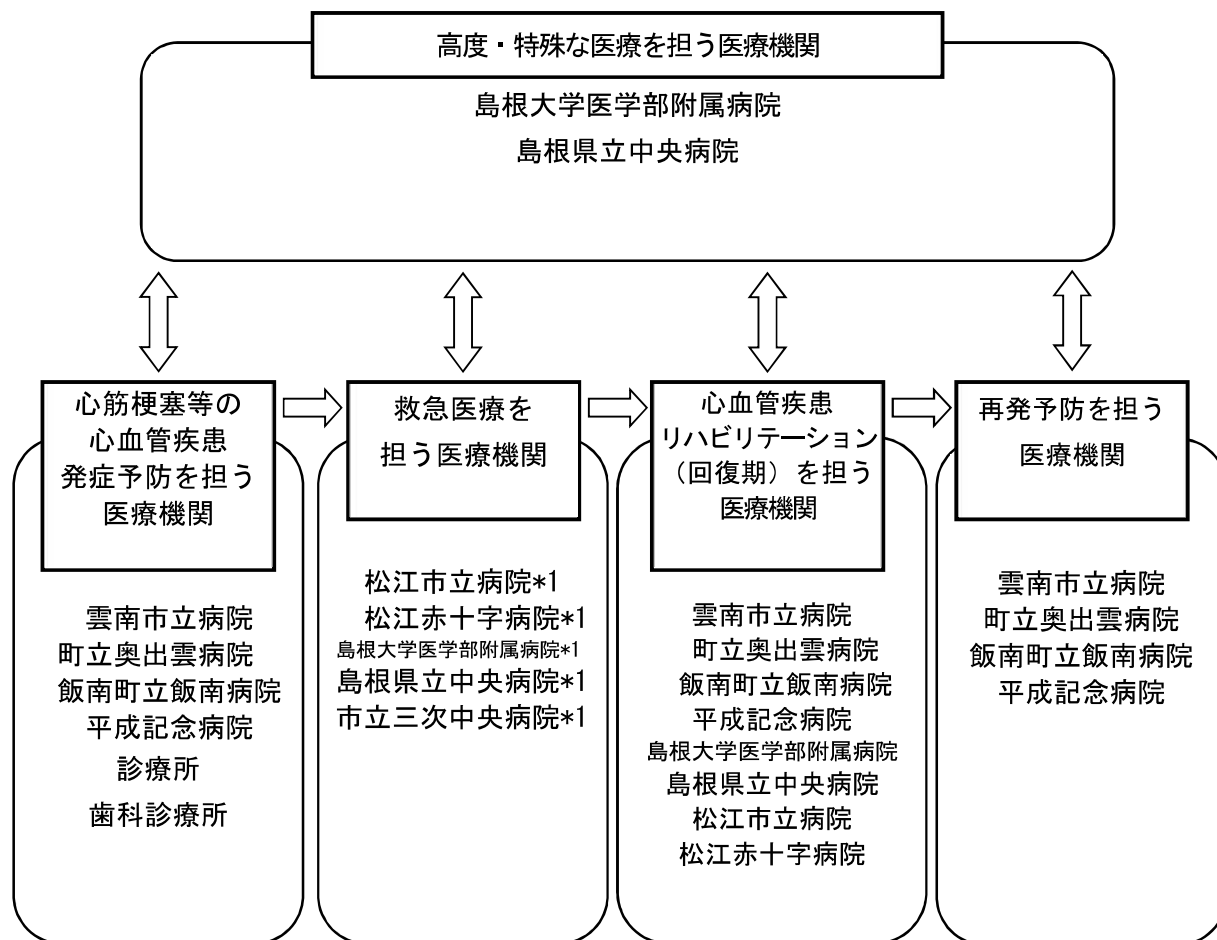
* 1は、組織プラスミノゲン・アクチベータ（t-PA）の静脈内投与による血栓溶解治療を行う医療機関

* 2は、脳卒中の外科的治療を行う医療機関

(3) 心筋梗塞等の心血管疾患

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○心疾患年齢調整死亡率は、平成 21 (2009) 年から平成 31 (2019) 年までの 10 年間で、男女とも減少傾向ですが、県より高い傾向にあります。</p> <p>■高血圧や糖尿病等を予防するため、塩分の過剰摂取や喫煙等の生活習慣改善の取組をより一層推進することが必要です。</p> <p>■危険因子となる高血圧や糖尿病等を早期発見するためには、特定健康診査受診率及び精密検査受診率の向上が必要です。</p> <p>■圏域では回復期のリハビリテーションが実施されていますが、合併症や再発の予防、在宅復帰のため、継続的にリハビリテーションを実施できる体制づくりが必要です。</p>	<p>○心疾患の発症に関連のある喫煙、飲酒、食生活、運動等の生活習慣改善の取組は、「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき推進します。</p> <p>○かかりつけ医や保険者、事業所等と連携して、特定健康診査及び精密検査の受診勧奨に努めます。</p> <p>○急性期医療を担う松江・出雲圏域の医療機関と、合併症予防や再発予防、在宅復帰のための心血管リハビリテーションを実施する医療機関の連携を推進します。</p>

【心筋梗塞等の心血管疾患・雲南圏域】

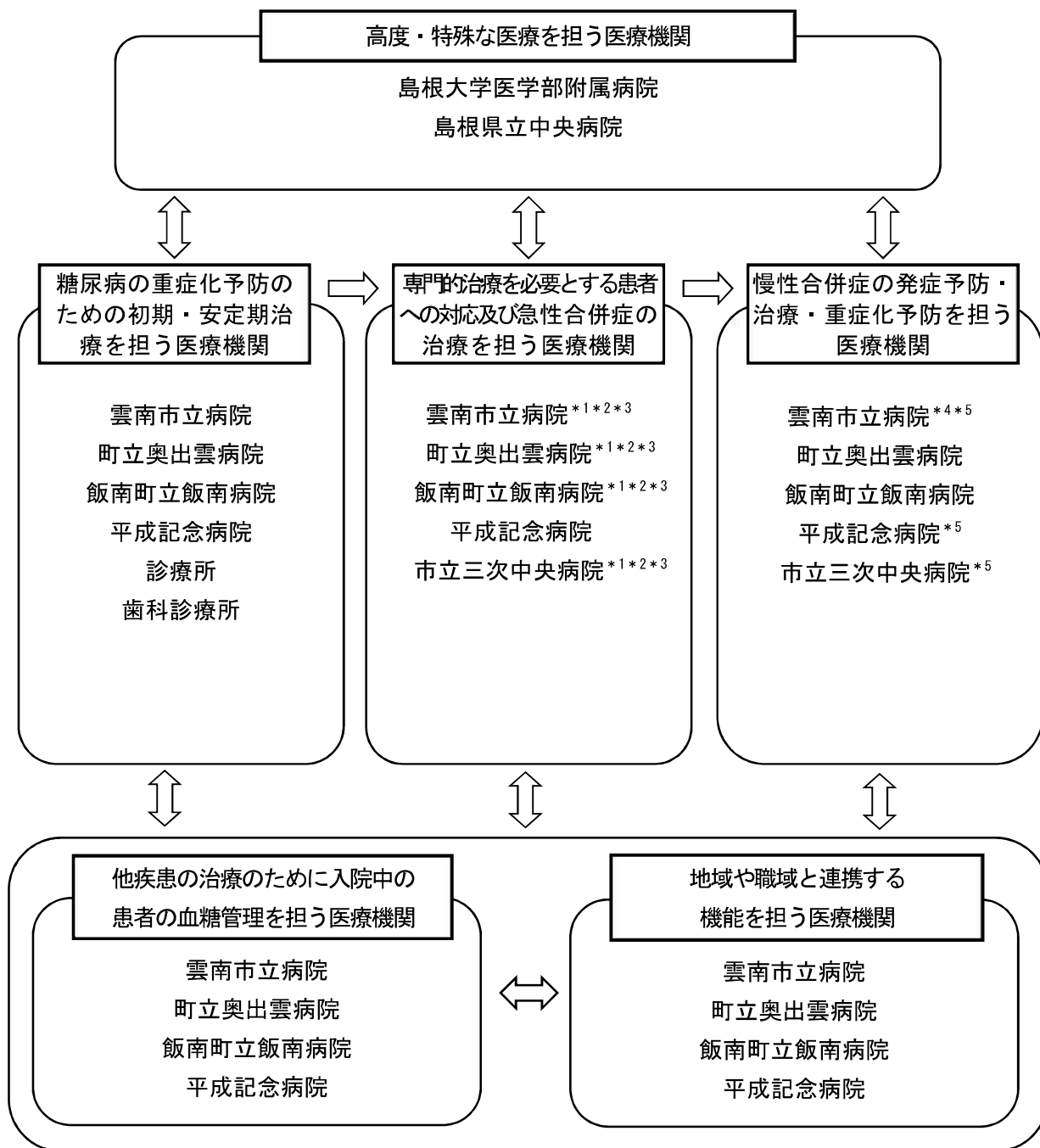


* 1は、冠動脈造影検査および適応があれば経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を行う医療機関

(4) 糖尿病

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○特定健康診査や事業所健康診断受診者における、20-64歳の糖尿病年齢調整有病率は、平成28(2016)と令和3(2021)年を比べて男女とも増加傾向で、県より高い傾向にあります。</p> <p>○40-74歳の糖尿病予備群年齢調整該当者率は、男女とも増加傾向で、県より高く推移しています。</p> <p>○糖尿病重症化予防対策として、「雲南圏域国保特定健診CKDフォロー体制図」を作成し、各市町と医師会、医療機関との連携推進に取り組んでいます。</p> <p>○人工透析患者数は近年横ばいで推移しています。透析導入の原因疾患は糖尿病性腎症が最も多くなっていますが、近年は横ばいで推移しており、腎硬化症が増加傾向にあります。</p> <p>○令和5年に人工透析実施医療機関が3か所から2か所に減少し、新規患者の圏域内での受け入れが難しい状況にあります。また、患者の約2割は圏域外で人工透析を受けており、他圏域と比べて高い状況です。</p> <p>■糖尿病予防のため、望ましい食習慣や運動習慣の定着といった生活習慣の改善のための取組をより一層推進することが必要です。</p>	<p>○乳幼児期からの各ライフステージにおける健康課題に応じた取組を「健康長寿しまねの推進」や「しまね健康寿命延伸プロジェクト事業」に基づき、関係機関・団体との連携のもと推進します。</p> <p>○病診連携や地域連携による雲南圏域国保特定健診CKDフォロー体制の推進を図ります。</p> <p>○特定健康診査及び精密検査の受診率向上を目指した取組を推進します。</p> <p>○人工透析実施医療機関と連携し、受け入れ体制の充実を図ります。</p>

【糖尿病・雲南圏域】



* 1は、糖尿病昏睡等急性合併症の治療が24時間実施可能な病院

* 2は、糖尿病昏睡等急性合併症の治療が24時間実施可能であることに加えて、75gOGTT検査、HbA1c検査を実施し、各専門職種チームによる食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療（心理問題を含む。）が可能で、食事療法、運動療法を実施するための設備を有する病院

* 3は、糖尿病患者の妊娠に対応可能な病院

* 4は、蛍光眼底造影検査、光凝固療法、硝子体出血・網膜剥離等の手術が可能な病院又は診療所

* 5は、尿一般検査、尿中アルブミン排泄量検査、腎臓超音波検査、血液透析が可能な病院又は診療所

(5) 精神疾患

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○自立支援医療受給者は令和4(2022)年6月30日現在1,322人で、平成29(2017)年に比べ9.3%増加しています。精神保健福祉手帳所持者は令和4年は506人で、平成29年に比べ36.0%増加しています。</p> <p>○年齢調整自殺死亡率(5年平均)は令和元(2019)年、男性は26.9で減少傾向ですが、県より高く、女性は7.8で横ばいに推移しており、県より若干高い傾向にあります。</p> <p>なお、壮年期は令和元年、男性は48.0、女性は15.9で、老年期は、男性は28.3、女性は14.6で、いずれも県より高い傾向にあります。</p> <p>■精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた地域の基盤整備が必要です。</p> <p>■入院中からの退院支援や地域生活移行及び地域定着を推進するための体制整備が必要です。</p> <p>■各年齢層に応じた自死対策を進めていく必要があります。</p>	<p>○精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた地域の基盤整備を図るため、圏域や市町ごとの協議の場を通して、関係者の重層的な連携を図ります。</p> <p>○長期入院者の退院支援、地域定着の推進を図るため、地域や家族の理解の促進、交通手段や住まいの確保等サービス基盤の整備、ピアサポーターの効果的な活用、相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>○ゲートキーパーの養成及び関係者の資質向上を図り、市町と連携して、うつ病の早期発見・早期対応等の取り組みを推進します。</p>

【精神疾患・雲南圏域】

		各疾患への対応状況											精神科医療体制の状況				
		統合失調症	躁うつ病・うつ病	認知症	児童・思春期	発達障がい	依存症			PTSD	高次脳機能障がい	摂食障がい	てんかん	精神科救急	身体合併症	新興感染症への対応	自死未遂者への対応
							アルコール	薬物	ギャンブル								
病院	奥出雲コスモ病院	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎	
	雲南市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
	飯南町立飯南病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
	島根県立鳥根こころの医療センター	◎	◎	◎	☆◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
診療所	永生クリニック	○	○	○					○	○		○				○	

* 本表の見方について

- 各疾患への対応状況及び自死対策：通院医療を提供している医療機関は○
入院及び通院医療を提供している医療機関は◎
訪問看護を提供できる訪問看護ステーションは●
- 精神科救急：一次救急のみに対応している医療機関は○
二次救急にまで対応している医療機関は◎
- 身体合併症：対応している医療機関は○、ただし、精神科で対応可能な範囲及び他の医療機関と連携して対応している場合を含みます。
- ☆印は県の連携拠点病院。ただし、現在連携拠点として機能している病院についての記載であり、今後追加等の変更の可能性があります。

* 上記表以外の精神科を標榜している医療機関や訪問看護ステーションの対応状況については「[島根県障がい福祉課のホームページ](#)」を参照してください。

* 本表に記載のない病院でも、疾患によっては診療している場合があります。

医療機関での治療については、「[島根県医療機能情報システム（島根県医療政策課ホームページ）](#)」を参照してください。

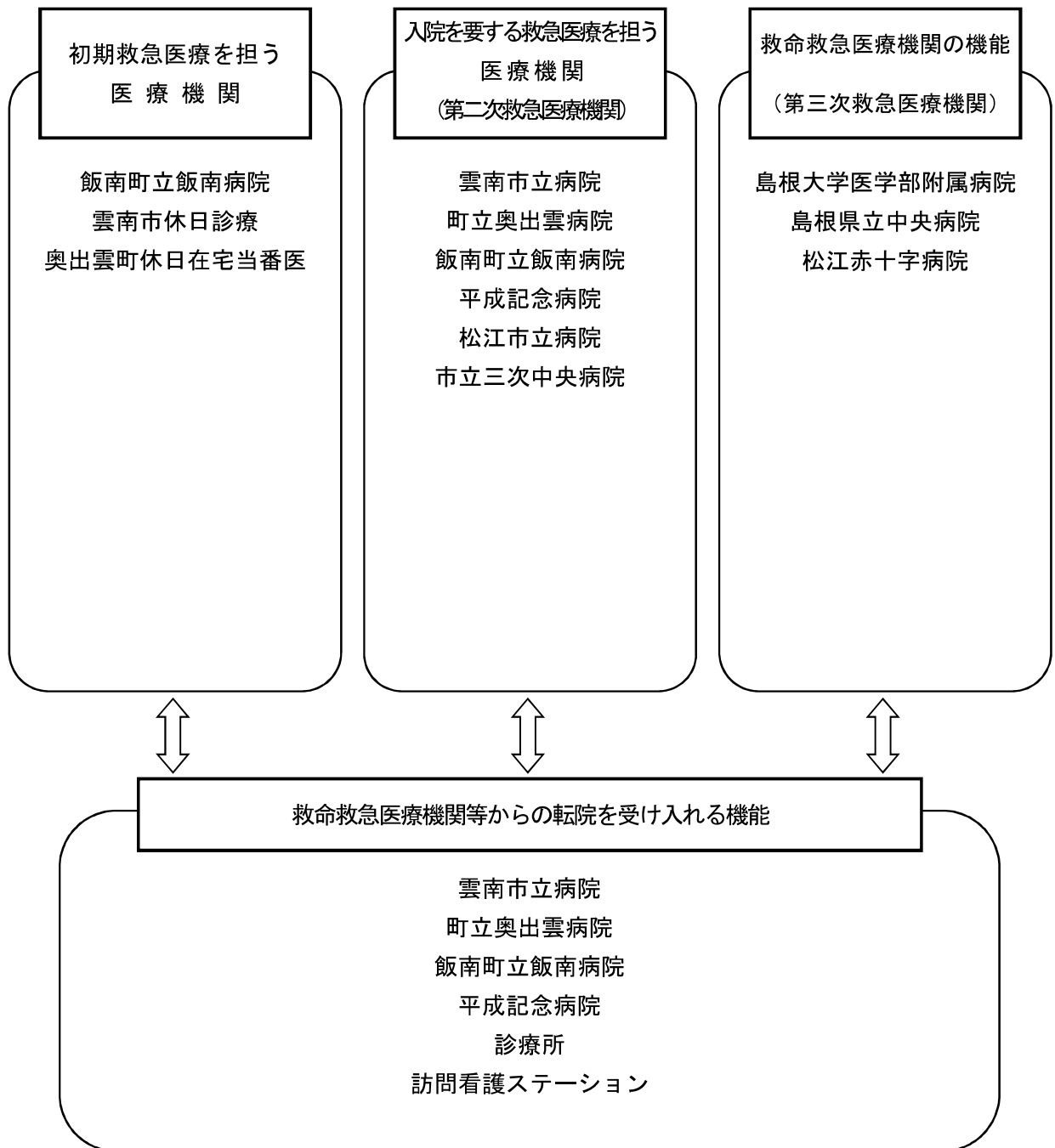
（留意事項）

診療所や訪問看護ステーションは、数が多い場合は障がい福祉課ホームページを参照してもかまいません。
医療観察制度に基づく指定通院医療機関は、上記には記載しません。（積極的に公表されていないため）

(6) 救急医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○ドクターヘリの要請率は、雲南圏域が一番高いです。</p> <p>■現状の救急医療体制の維持充実に努めます。</p>	<p>○救急連絡会を活用してドクターヘリの効果的な運航について検討します。</p>

【救急医療・雲南圏域】



(7) 災害医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○発災時には、保健医療福祉地域調整本部(保健所)を設置し、DMAT等の派遣差配を行います。</p> <p>■福祉ニーズ情報の保健所への集約、市町への連携を強化する必要があります。</p>	<p>○福祉分野を含めた連携体制を構築し、避難による健康状態の悪化を防止します。</p> <p>○地域医療連携推進法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク(以下「地域医療連携推進法人」という)内での相互支援の仕組みづくりを推進します。</p>

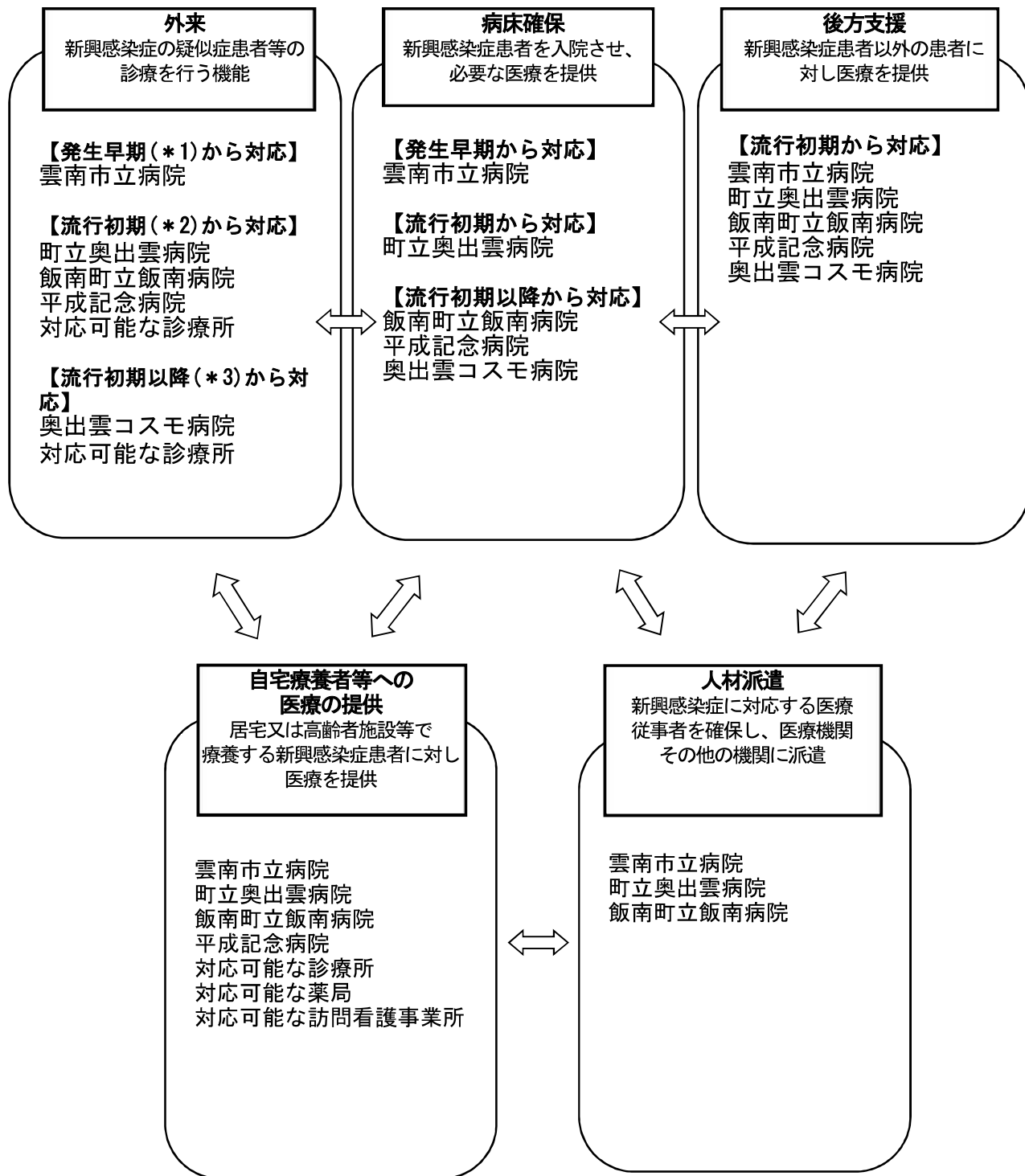
【災害医療・雲南圏域】

災害拠点病院	災害拠点精神科病院	災害協力病院
雲南市立病院		町立奥出雲病院 飯南町立飯南病院 平成記念病院

(8) 感染症に対する医療（感染症予防計画）

	現状（○）・課題（■）	今後の方向性
圏域	<p>○これまで新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、外来診療や入院などの医療提供体制の確保や自宅・宿泊療養者への支援等を実施してきました。</p> <p>■今後発生する可能性のある新興感染症等に対する発生・まん延時の医療提供体制の確保が課題です。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症での対応を念頭に、医療機関その他関係者と連携し、感染症医療提供体制の確保に取り組みます。</p> <p>○R5 年度中の改定を予定している県の感染症予防計画との整合を図るため、同計画の改定作業の中で雲南圏域における課題や改善策等について関係機関と意見交換を行います。</p>

【新興感染症に対する医療・雲南圏域】



*1 発生早期 感染症法に基づく厚生労働大臣による新興感染症発生の公表前

*2 流行初期 厚生労働大臣による新興感染症発生の公表後3か月までを基本に政令で定められた期間

*3 流行初期以降 流行初期(*2)経過後

(9) 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）

	現状（○）・課題（■）	今後の方向性
圏域	<p>○令和4年度末現在、準無医地区は2か所、準無歯科医地区は2か所、へき地診療所は4か所あります。</p> <p>○雲南市立病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院、平成記念病院が「地域医療拠点病院」に指定され、巡回診療やへき地診療所への代診医の派遣等の取組を行っており、今後、これらの果たす役割が、ますます重要となってきます。</p> <p>○開業医の高齢化等に伴う診療所数の減少が顕著であり、病院医師が外来機能（救急外来、在宅医療、学校医、産業医等も含む）の多くの部分を担っている状況です。</p> <p>○雲南地域における病院等相互間の機能分担及び業務の連携を推進し、良質かつ適切な医療提供体制を確保するため、令和3年2月に「地域医療連携推進法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク」が設立されました。医療従事者の確保・育成、職員の相互派遣、医療機器等の共同利用などの取組が進められています。</p> <p>■医師の高齢化、後継者不足、地域偏在、診療科偏在等の課題があり、今後、更に医師不足が顕著になることが危惧されます。その他にも看護職員等の不足や施設・設備の老朽化などの課題を抱えています。</p> <p>■高齢化が進み、複数の慢性疾患を抱える高齢者が増加する中、かかりつけ医機能の強化が課題です。</p>	<p>○限られた医療資源（人材、設備等）を効率的、効果的に活用できるよう、地域医療連携推進法人、医療連携推進コーディネーターとの連携を図り、適切な医療を提供できる体制の充実・強化を目指します。</p> <p>○診療所減少への対応やかかりつけ医機能の強化等のために、総合的な診療能力を有し、プライマリケアを実践できる病院総合診療医の確保を進めていきます。</p>

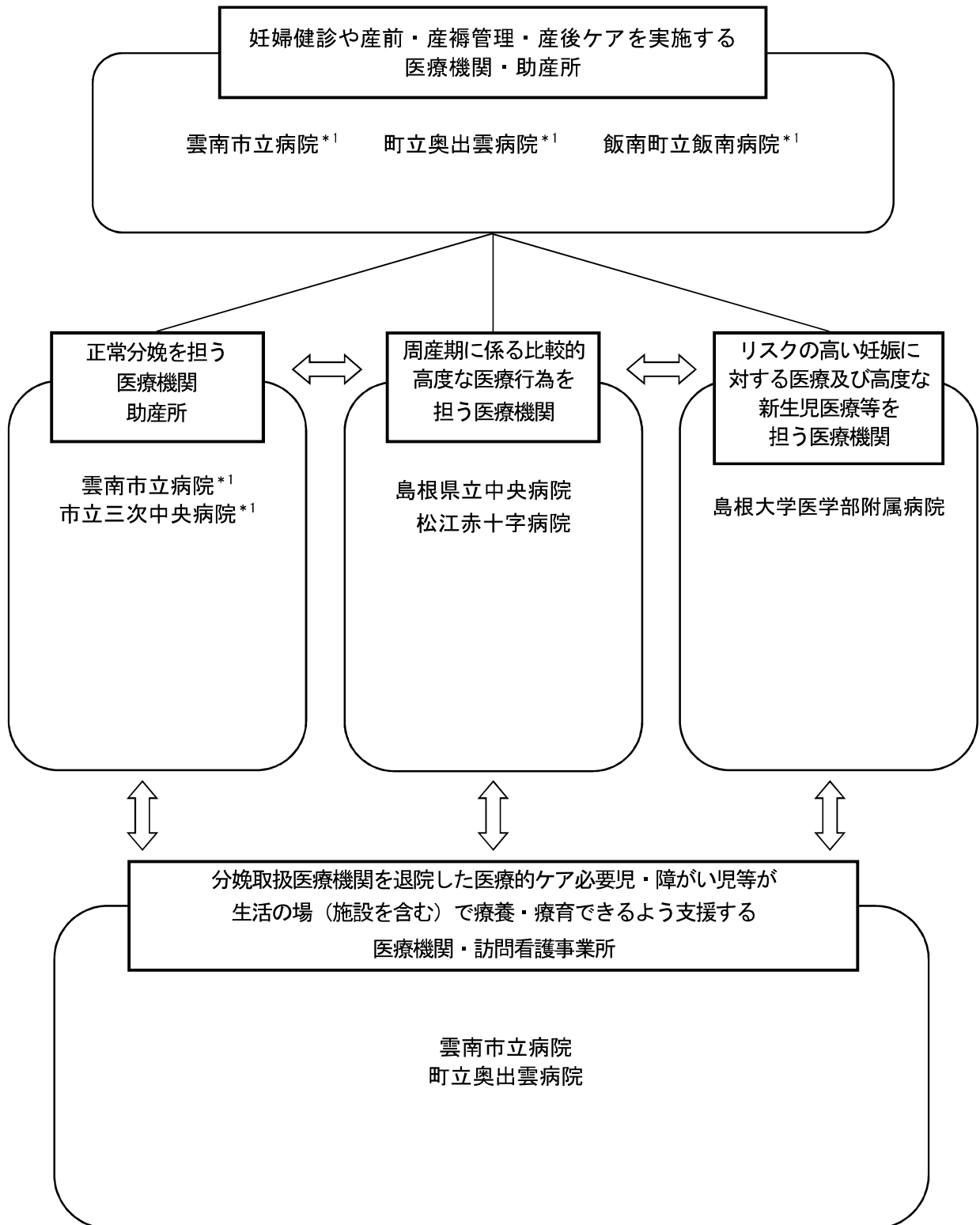
【地域医療・雲南圏域】

へき地における 保健指導の機能	へき地における 診療の機能	へき地の診療を 支援する 医療の機能	行政機関等による へき地医療の支援
<p>雲南保健所 雲南市 奥出雲町 飯南町</p>	<p>【雲南市】 掛合診療所 【奥出雲町】 町立馬木診療所 【飯南町】 飯南町立谷出張診療所（国保） 飯南町立来島診療所（国保） 飯南町立志々出張診療所（国保）</p>	<p>【雲南市】 雲南市立病院 平成記念病院 【奥出雲町】 町立奥出雲病院 【飯南町】 飯南町立飯南病院</p>	<p>県 県地域医療支援機構</p>

(10) 周産期医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○管内の分娩取扱医療機関が令和3年3月に1施設減少し、管内での分娩取扱機関は雲南市立病院の1施設です。</p> <p>○管内の医療機関における出生割合は、令和4(2022)年度は34.8%となっています。なお、分娩の約6割は松江・出雲圏域等での出生となっています。</p> <p>○出生数に対する低出生体重児の割合は増加傾向にあり、県と比べても高い傾向にあります。</p> <p>○「母体搬送連絡票」による搬送は、平成30(2018)年から令和3(2021)年にかけて増加傾向にあります。</p> <p>■特定妊婦や精神疾患を合併した妊婦等、支援が必要な妊婦は増加傾向にあり、精神科等との連携により適切な支援を行うことが必要です。</p>	<p>○医療機関での産婦人科と外科、麻酔科、小児科、精神科など他診療科の連携を進めるとともに、圏域内の関係機関との連携体制を構築し、安心して子どもを産み育てることのできる環境整備を推進します。</p> <p>○「母体・新生児搬送連絡票」の活用等による迅速な情報共有により医療機関との連携を推進します。</p>

【周産期医療・雲南圏域】

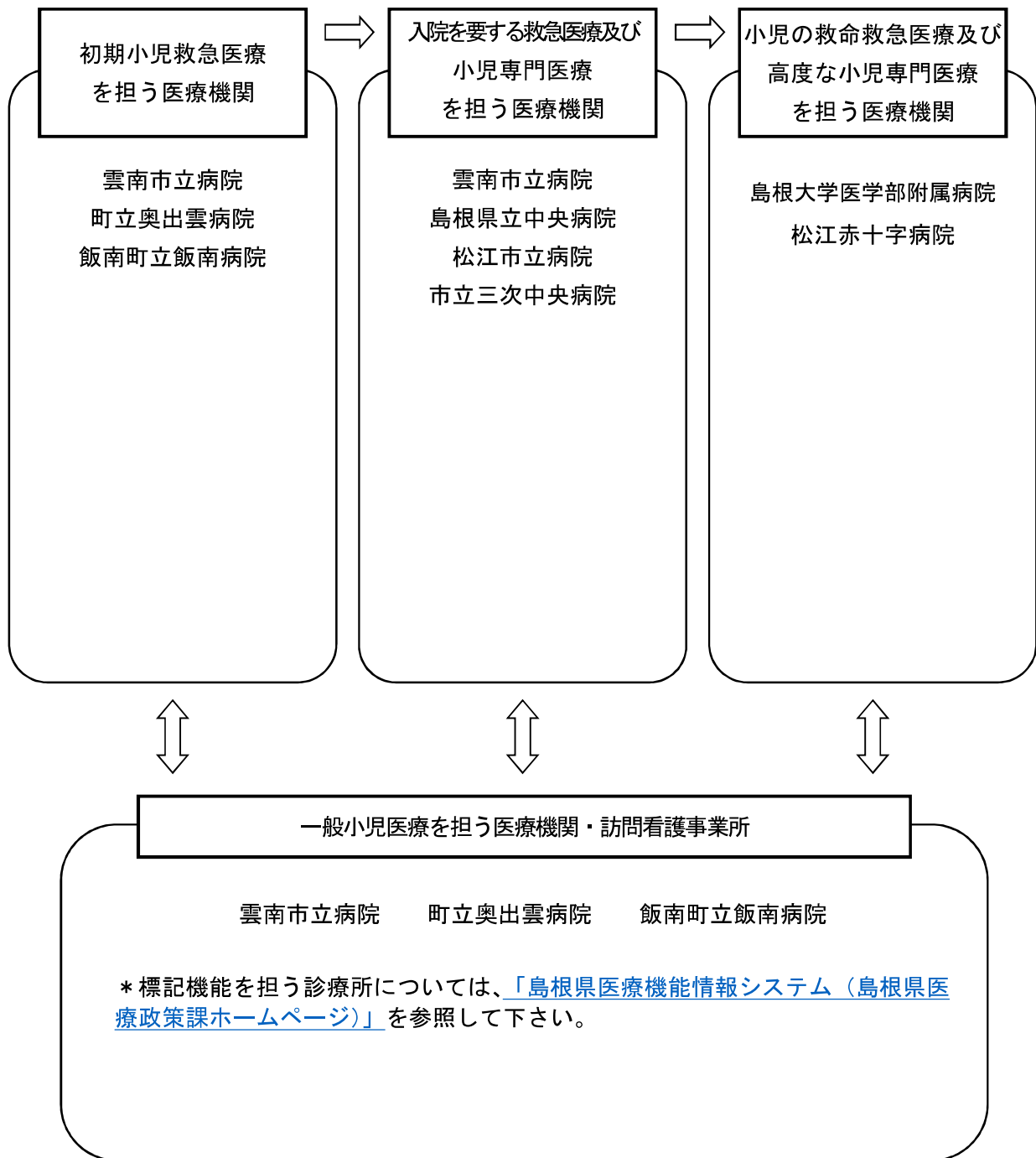


* 1 は、妊婦健診を行う病院・診療所

(11) 小児救急を含む小児医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○入院を要する小児救急医療を担う医療機関は1か所で、重篤な小児患者の救命救急医療は圏域外の医療機関での対応となっています。</p> <p>■医療的ケアの必要な子どもや長期の在宅療養を必要とする慢性疾患児への支援は、圏域内には専門医がいないため、松江・出雲等他圏域の医療機関との連携が必要です。</p>	<p>○入院に対応できる小児医療体制の維持に努めます。</p>

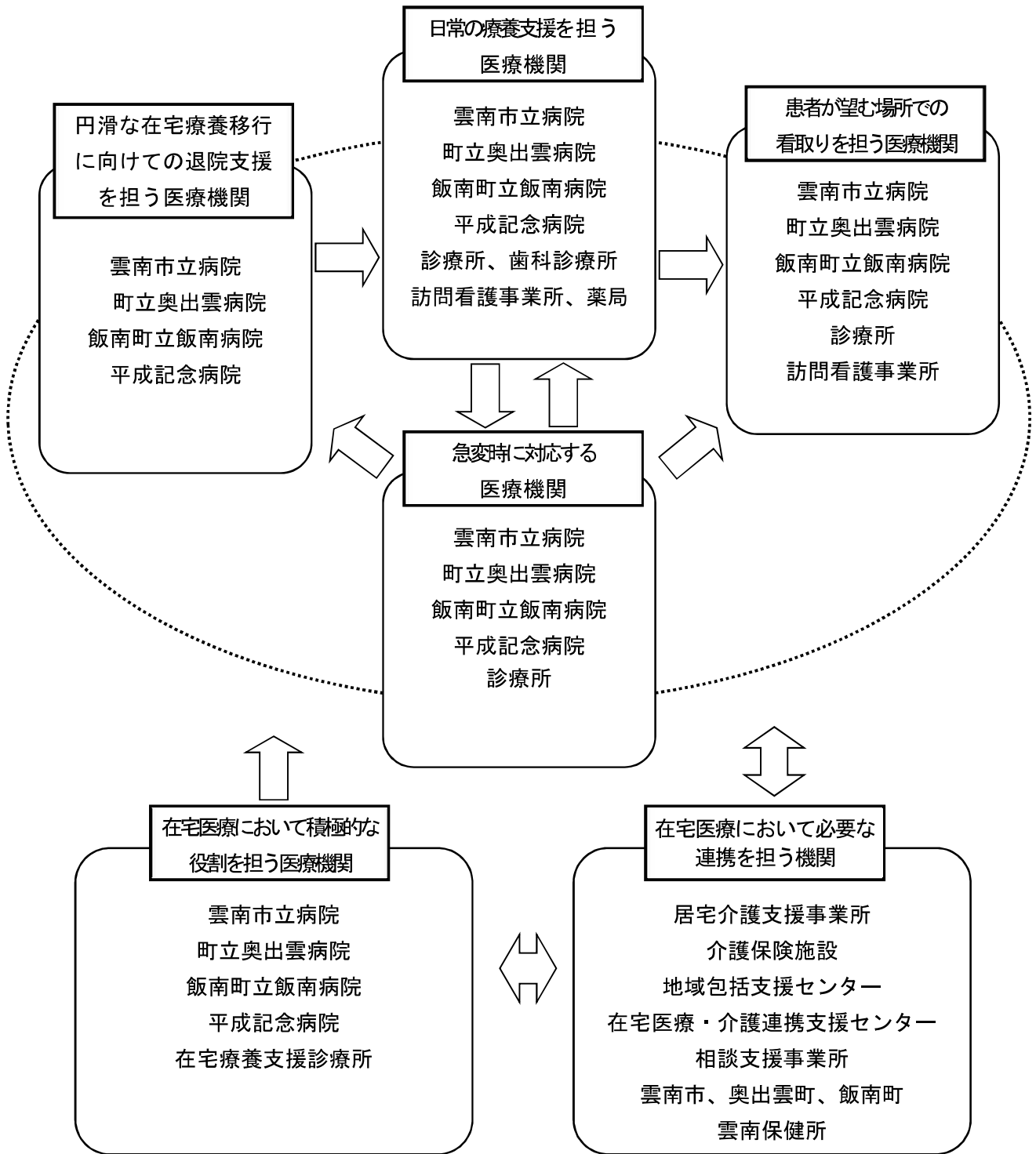
【小児救急を含む小児医療・雲南圏域】



(12) 在宅医療

	現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
圏域	<p>○当圏域では、病院の退院支援担当、介護支援専門員協会、地域包括支援センター等の関係者により医療介護連携調整検討委員会を開催しています。本会では、「雲南圏域における入退院連携マニュアル」を策定し、介護支援専門員協会作成の「医療介護連携シート」とともに運用しています。</p> <p>○病院が訪問診療や往診を行うなど、在宅医療を支える取り組みが進められています。</p> <p>○患者や家族が安心して在宅（施設を含む）で最期を迎えることができるよう、行政と医療機関が中心となってACP（アドバンス・ケア・プランニング）の考えを取り入れた取り組みを進めています。</p> <p>■当圏域では、診療所数が少なく医師の高齢化や後継者不足により、今後の在宅医療の供給体制が危惧されています。</p> <p>■訪問看護師や薬剤師等の人材確保及び養成並びに訪問看護ステーションの運営支援が課題です。</p> <p>■24 時間いつでも患者を診ることができるよう、医師や訪問看護師等による連携体制の強化、及び入院医療機関における円滑な受け入れといった後方支援体制のさらなる構築が求められています。</p>	<p>○「雲南圏域における入退院連携マニュアル」や介護支援専門員協会作成の「医療介護連携シート」の活用を推進するとともに、引き続き関係者で在宅医療推進に係る議論を行います。</p> <p>○まめネット等の ICT を活用した効率的な医療提供体制の構築に向け、引き続き関係者と議論を行います。</p> <p>○行政、医療機関等が連携して、住民向け、医療従事者向け等、対象者に合わせた ACP の普及・啓発に引き続き取り組みます。</p> <p>○市町が中心となって在宅医療提供体制が確保されるよう、保健医療対策会議介護連携部会において、慢性期医療、在宅医療及び介護サービスの提供体制について継続的に検討し、地域包括ケアの推進を図ります。</p>

【在宅医療・雲南圏域】



- * 「在宅患者訪問診療を実施している診療所」「往診を実施している診療所」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。
- * 「歯科訪問診療を実施している歯科診療所」「訪問歯科衛生指導を実施している歯科診療所」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。
- * 「一般用医薬品の服用等や介護等の相談対応を実施している薬局」「各薬局の時間外対応状況」については、「医療情報ネット」を参照して下さい。
- * 在宅療養支援診療所については、別表を参照してください。

別表：在宅医療において積極的な役割を担う診療所：在宅療養支援診療所 6カ所
 (令和5年4月1日時点)

井上医院	山根医院
医療法人 石原医院分院	はまもと内科クリニック
自然治癒力活性全人介護医療心療漢方内科 横田スサノオクリニック	晴木医院

2 雲南圏域

■ 医師全体

1 現状と課題

- ・雲南圏域は医師偏在指標において医師少数区域に該当しています。
- ・診療所医師の高齢化、後継者不足、地域偏在、診療科偏在等の課題があり、今後、更に医師不足が顕著になることが危惧されています。また、病院医師が外来機能（救急外来、在宅医療、学校医、産業医等も含む）の多くの部分を担っている状況であり、今後、この傾向は強まることが想定されるとともに、無医地区の拡大も懸念されるため、外来機能を維持するために必要な病院総合診療医の確保を進めていく必要があります。
- ・令和4（2022）年勤務医師実態調査では、勤務医師の充足率は81.7%で県の84.3%を下回っており、診療科別では脳神経外科、放射線科等の医師が不足しています。
- ・特別養護老人ホーム嘱託医については、診療所医師及び病院医師が担っていますが、医師の高齢化等に伴い、介護保険施設等における医師の確保が困難になることが懸念されています。
- ・医療提供体制の機能分担及び業務の連携を推進し、医療従事者を確保・育成する仕組みを構築するなど良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制を確保することを目的に、令和3年2月に「地域医療連携推進法人雲南市・奥出雲町地域医療ネットワーク」が設立されました。
- ・市町、医療機関が連携して島根大学医学部地域枠入学者の確保、医学生の実修等を実施しています。
- ・地域の医療ニーズに対応できる総合的な診療能力を有し、プライマリ・ケアを実践できる病院総合診療医の養成が求められています。

2 施策の方向

- ・島根大学医学部等と連携し、医師確保に向けた取組を推進します。
- ・診療所医師の高齢化等に伴う診療所数の減少による外来機能の維持のため、病院総合診療医の養成に努めます。
- ・医師の働き方改革を踏まえた特定行為研修を修了した看護師等や医療事務作業補助者の確保による、タスクシフトの推進等を図ります。

■ 産科

1 現状と課題

- ・雲南圏域は、国の分娩取扱医師偏在指標による相対的医師少数区域ではありませんが、圏域内の分娩施設は令和3年3月より雲南市立病院のみとなり、令和5年9月現在医師2名体制で年間120件程度の分娩を取り扱っています。
- ・雲南市立病院及び町立奥出雲病院には助産師外来があり、助産師へのタスクシフトによる医師の負担軽減の取組を進めています。

2 施策の方向

- ・分娩取扱医療機関としての雲南市立病院の機能を維持することを目指します。
- ・産婦人科医の負担軽減のため、助産師との協働及び役割分担を進めるなどの方策の検討を進めます。

■小児科

1 現状と課題

- ・雲南圏域で勤務する小児科医は病院医師2名、診療所医師1名の計3名(令和5年9月現在)であり、国が示した小児科医師偏在指標では相対的医師少数区域に該当しています。
- ・小児科医が不足している状況もあり、小児科のある二次救急医療機関への休日・夜間の受診が増加し、入院を要する救急患者の対応に支障を来している状況もあります。

2 施策の方向

- ・現状の小児医療体制を維持するために、必要な医師を確保します。また、医師の負担軽減につながる取組を進めます。(小児救急電話相談(#8000)の活用啓発、小児の在宅医療に係る多職種連携等)

第 2 節 雲南医療圏

(1) 概況

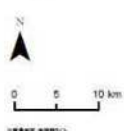
雲南医療圏の概況				外来医師多数区域							
外来医師偏在指標	外来医師偏在指標	72.7	医療施設数	病院	一般診療所	在宅医療に関する施設数	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	在宅療養支援診療所		
	一般診療所従事医師数	28		雲南圏域	5		48	雲南圏域	0	1	6
	標準化診療所従事医師数	28		雲南市	3		31	雲南市	0	1	3
	診療所外来患者対応割合	61.7%		奥出雲町	1		10	奥出雲町	0	0	3
	順位	313		飯南町	1		7	飯南町	0	0	0

○施設配置状況

— 医療施設所在地マップ（厚生労働省提供）より —
医療機関マッピング（地方厚生局届出情報）



島根県
3202
雲南



○医療機器保有状況

機器名	医療機関名（台数）（H29時点）	
	病院	
CT	4	雲南市立病院（1）、平成記念病院（1）、町立奥出雲病院（1）、飯南町立飯南病院（1）
MRI	2	雲南市立病院（1）、平成記念病院（1）
PET	0	なし
放射線治療	0	なし
マンモグラフィ	3	雲南市立病院（1）、町立奥出雲病院（1）、飯南町立飯南病院（1）

(2) 現状と課題及び今後の方向性

①全体の方向性	○雲南圏域は、診療所医師の高齢化や後継者不足の課題があり、病院医師が不足する機能を補完しながら体制構築を進めていくことが重要です。
②【初期救急医療の提供体制】	<p>ア) 現状と課題(提供体制)</p> <p>○初期救急については、かかりつけ医、雲南市休日診療(休止中)、休日在宅当番医制度(奥出雲町)及び救急告示病院の救急外来など、地域事情に応じた体制が取られていますが、救急告示病院の救急外来を受診する患者は多いです。</p> <p>○休日在宅当番医制度では、雲南医師会に所属する診療所医師及び奥出雲病院医師が当番制で診療を行っていますが、医師の高齢化等、医師会の支援体制を維持するための課題があります。</p> <p>イ) 今後の方向性</p> <p>○休日診療・在宅当番医制度に協力できる医師の体制を維持する必要があります。</p> <p>○救急告示病院(雲南市立病院、平成記念病院、町立奥出雲病院、飯南町立飯南病院)の救急外来での初期救急体制の維持・充実が必要です。</p>
③【在宅医療の提供体制】	<p>ア) 現状と課題</p> <p>○当圏域において、24時間体制で在宅患者に対応している「在宅療養支援診療所」は6か所(令和5年9月現在)。また、在宅療養支援診療所ではありませんが、往診等を実施している診療所もあります。</p> <p>○在宅医療供給量調査(令和5年度医療機能調査)では、回答のあった診療所20か所における令和5年4月の1か月における受け持つ在宅医療患者の数は合計399人でしたが、令和11年では合計221人が対応可能と回答されており、一人の医師につき平均6人の訪問診療の提供が困難になる可能性があります。また、夜間往診が可能な診療所医師は、令和5年現在では15か所でしたが、令和11年では10か所が可能と回答されており、夜間往診ができる診療所医師が減少する可能性があります。</p> <p>○診療所医師の高齢化等による影響により、訪問診療及び夜間往診等の対応が困難になることが想定されるため、病院医師による訪問診療及び夜間往診への協力体制が必要です。</p> <p>○雲南市では、診療所医師が年数回程度集まり、在宅医療に係る諸課題を話し合う場として「在宅医療意見交換会」が開催されています。訪問看護師、ケアマネジャー等との話し合いも行われるなど、多職種連携にも繋がっています。</p> <p>○高齢化の進展により、今後、在宅(施設を含む)での高齢者の医療需要の増加が見込まれる一方で、在宅医療の供給不足が危惧されています。</p> <p>イ) 今後の方向性</p> <p>○診療所医師を含む多職種によるまめネット等のICTを活用したネットワーク化の推進を図ります。</p> <p>○診療所数が少なく医師の高齢化による夜間対応や後継者不足等の課題に対し、病院が訪問診療や往診を行うなどの取組を推進します。</p> <p>○病院による在宅医療への支援体制を充実し、地域包括ケアシステムへの参画を促進します。</p>
④【産業医、学校医、予防接種等の公衆衛生に係る医療提供体制】	<p>ア) 産業医</p> <p>○雲南医師会会員の認定産業医23人のうち8人が診療所医師で現在産業医として活動していますが、令和2年と比較して半減しています。そのため、雲南医師会が契約している事業所の約6割は病院医師が担っています。</p> <p>イ) 学校医</p> <p>【雲南市】小・中学校22校の校医を17名の医師(うち3名は病院所属医師)が担当。</p> <p>【奥出雲町】小・中学校12校の校医を4名の医師(いずれも開業医)が担当。</p> <p>【飯南町】小・中学校6校の校医を6名の医師(いずれも病院所属医師)が担当。</p> <p>○眼科、耳鼻科健診等については、他圏域医療機関に所属する医師も含めた診療所医師・病院医師が担っています。</p> <p>○一人の医師が複数の学校を担当していることや、他圏域医療機関所属の医師の協力により、学校医の調整はできています。しかし、今後、医師の高齢化等の影響により調整が困難になる可能性があります。</p> <p>ウ) 今後の方向性</p> <p>○病院医師の支援のもと、産業医、学校医業務の実施体制を維持することが必要です。</p>

(3) 医療機器の効率的な活用に係る計画

機器名	共同利用の方針
CT	圏域内の病院、診療所に配置されている。 共同利用については、現在も診療所から病院に紹介する形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく。
MRI	圏域内の病院に配置されている。 共同利用については、現在も診療所から病院に紹介する形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく。
PET	圏域内の病院には配置されていない。 共同利用については、現在も圏域外の病院において患者紹介の形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう連携を図っていく。
放射線治療	圏域内の病院には配置されていない。 共同利用については、現在も圏域外の病院において患者紹介の形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく。
マンモグラフィ	圏域内の病院に配置されている。 共同利用については、現在も患者紹介の形で実施されており、今後もより効果的に利用できるよう、連携を図っていく。

別紙

島根県雲南保健所
地域包括ケア推進スタッフ 細木あて

F A X: 0854-42-9654

E-MAIL: unnan-hc@pref.shimane.lg.jp

締め切りは11月17日12時までです。

所 属 (_____)

氏 名 (_____)

第8次島根県保健医療計画についてのご意見

- ①雲南圏域素案、医療連携体制図 ②医師確保計画案 ③外来医療計画案
④健康長寿しまね推進計画（第三次）案

上記 番号	ご 意 見

【雲南圏域の状況】（現状・課題と施策の方向）

推進の柱1 住民主体の地区ごとの健康づくり活動促進

現状（○）・課題（■）	施策の方向
<p>○市町では、健康づくりの関係機関や団体、公民館や自治会等の地区組織や自主グループ等からなる「健康づくり推進協議会」が設置され、健康で生きがいをもって暮らせるまちづくりに取り組んでいます。また、地区組織の中に住民の健康づくり組織が設けられており、地域のつながりを生かした健康づくりの推進が行われています。</p> <p>○しまね健康寿命延伸プロジェクトでは雲南市幡屋地区をモデル地区とし、住民、地区組織、行政等が協働し健康なまちづくりを推進しています。また、働き盛り世代に健康課題が多く、事業所との連携等従業員の健康も含めた地域ぐるみで取り組む健康づくりを推進しています。</p> <p>■モデル地区活動の効果を他地域とも共有し、圏域内への波及に向けた仕組みづくりが必要です。</p>	<p>○関係機関・団体等、多様な実施主体と協働し、人と人とのつながりや支え合いを大切にしたい、住民主体の地区ごとの健康づくり活動を推進します。</p> <p>○表彰事業等を通じて地域や職域における健康づくり活動の好事例を共有することで、健康づくりに取り組む機運を高め、地域における活動の活性化を図ります。</p> <p>○モデル地区活動で培った、住民主体の健康づくりの取組を継続し、他の地域づくりの取組と連携した重層的な取組を推進します。</p>

推進の柱2 生涯を通じた健康づくりの推進

現状（○）・課題（■）	施策の方向
<p>○平均寿命、65歳平均自立期間は、男女とも延伸し、目標を達成しています。また、脳血管疾患、虚血性疾患による死亡も減少しています。</p> <p>○市町では、通いの場で定期的な運動に取り組む地区が多く、それぞれリハビリ専門職等と連携して取り組まれています。</p> <p>○「小さな拠点」づくりなど、地域の「人とのつながり」を基に、安心して暮らし続けていくための取組が推進されていますが、地域活動やボランティア活動への参加や、人生に生きがいを感じる者の割合は減少しています。</p> <p>■がんや脳血管疾患等の危険因子となる疾病や生活習慣については悪化しているものも</p>	<p>○乳幼児から高齢期まで、各ライフステージにおける健康課題に応じた取組を、家庭、関係機関・団体、行政等の連携のもと、生涯を通じた健康づくり活動を推進します。</p> <p>○住民主体の通いの場の量的な拡大に加えて、人とのつながりを通じ、高齢者が孤立しないよう、様々な分野が横断的に連携した「地域づくり」を推進します。</p>

<p>あり、引き続き一次予防の取組の推進が必要です。</p> <p>■働き盛り世代の健康づくりを進めるため、地域保健と職域保健が連携した健康づくりの展開や、事業所において積極的な健康づくりに取り組むことが必要です。</p>	
---	--

推進の柱3 疾病の早期発見、合併症予防・重症化予防

現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
<p>○特定健診の受診率は増加していますが、がん検診受診率は減少傾向にあります。高血圧や糖尿病などの適正管理やがん死亡率の低下につなげるため、市町において受診率向上に取り組まれています。</p> <p>○脳卒中発症者の約7割が高血圧を有していることから、高血圧の予防や適切な管理、減塩の取組等、正しい知識の普及啓発に取り組んでいます。</p> <p>○糖尿病重症化予防対策として、「雲南圏域国保特定健診 CKD フォロー体制図」を作成し、各市町と医師会、医療機関との連携推進に取り組んでいます。</p> <p>■住民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組むとともに、働き盛り世代の健康づくりを推進するため、健康な職場づくりに向けた支援が必要です。</p>	<p>○特定健診やがん検診の受診率向上のため、健診受診の必要性の普及啓発や、受診しやすい環境づくり等、関係機関と連携した取組を推進します。</p> <p>○病診連携や地域連携による雲南圏域国保特定健診 CKD フォロー体制の推進を図ります。</p> <p>○働き盛り世代を中心に、生活習慣の改善や血圧管理の重要性等啓発を行うことで、高血圧や糖尿病、脂質異常等疾病の適正管理や重症化予防を図ります。</p>

推進の柱4 多様な実施主体による連携のとれた効果的な運動の促進

現状 (○)・課題 (■)	今後の方向性
<p>○雲南圏域健康長寿しまね推進会議を母体として、構成団体と行政とが情報交換や具体的な取組の検討を行い、地域に密着した健康づくり運動を進めています。</p> <p>■乳幼児期から高齢期まで、ライフステージに応じた健康づくりを、多様な主体が連携し、地域全体で支援していくことが必要です。</p> <p>■「自然に健康になれる環境づくり」を通じて、健康無関心層を含めた健康づくりをさらに推進していくことが必要です。</p>	<p>○健康課題の改善のため、ライフステージの特徴や健康課題に応じた取組を、関係機関と連携のもと進めていきます。</p> <p>○健康な食生活や運動に、自然と取り組めるような環境づくりを推進します。</p>